



内外交際宴會禮式

1184



114
A4635



曾而內閣ニ於而陳述致候内外交際之実況ヲ增
進スル為メニ其季節ヲ定メ宴會訪問之禮ヲ修
メ候儀ニ付實施之際區々之設ケ無之為メニ禮
式之概則相定且各位設會之月次等ニ豫定致置
候方可然ト存候間別紙之通取調候御同意ニ有
之候得者御署名有之度候此段申進候也

明治十三年十二月廿七日

外務卿并上馨

大臣
恭議

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

御中

進而本文之外別紙書類寫一通相添候也

明治十四年春季

會主設會ノ順序

一月

中旬

晚餐會
夜會

三條大臣

但ニ食後ニ夜會ヲ開クトモ又

ハ夜會ノ日ヲ別ニ撰ムトモ各

其便ニ隨フ

下旬

晚餐會
夜會

岩倉大臣

但書同前

二月

太政官

十日前後
夜會
晚餐會
大隈
參議

但書同新

二十日前後
夜會
晚餐會
寺島
參議

但書同新

三月

十日前後
夜會
晚餐會
伊藤
參議

但書同新

二十日前後
夜會
晚餐會
西郷
參議

但書同新

四月

上旬
夜會
遊會
之內一回
黑田
參議

中旬
夜會
遊會
之內一回
山縣
參議

下旬
晚餐會
河村
參議

五月

上旬
夜會
遊會
之內一回
大木
參議

中旬
晚餐會
山田
參議

六月

上旬 晚餐會

黑田 參議

中旬 晚餐會

山縣 參議

下旬 園遊會之內一回

河村 參議

十一月

上旬 園遊會之內一回

山田 參議

下旬 晚餐會

大木 參議

內外交際宴會禮式

私會之部

目錄

第一章 交際ノ季節

第二章 節會ノ度敷

第三章 節會ノ種類

其一 晚餐會

其二 夜會

其三 園遊會

其四 茶會

其五 踏舞會

第四章

宴會ノ用室

第五章

招待狀ノ發期

第六章

每會招待狀ノ書式

第七章

賓客ノ席次

第八章

會主ノ迎待ノ禮式

第九章

婦人ノ扶助スルノ禮

第十章

男女ノ化粧室

第十一章

使了ノ配置

第十二章

來會者ヲ集中ノ禁戒

第十三章

禮服ノ種類及參着退散ノ時間

第十四章

招待ノ禮

第十五章

定季及臨時訪問ノ禮式

第十六章

接見時日ヲ定メ置ク

第十七章

官階ニ應ジテ訪問答禮

第十八章

訪問ノ種類

其一

新年節

其二

修好官到着及出發ノ訪問

其三

外國ノ帝王皇族着發ノ訪問

其四

婚姻及安産ノ訪問

其五

凶禮ノ訪問

其六

妻其夫ニ代テスル訪問

其七

公務ノ訪問

其八

訪問ノ時間

其九

夫婦訪問及名刺ノ殘シ方

其十

誕生病氣ノ訪問及其恭礼

緒言

凡ソ歐米各國ニ於テ其政府及ヒ人民外國ノ
 好官或ハ貴頭ノ人士ヲ過待スルニ大抵皆一定
 ノ通規慣例アリ内ハ以テ其威望榮譽ヲ保持
 外ハ以テ恭敬睦誼ヲ敦厚ニス近時外國ノ貴
 我邦ニ來航スル往來相踵ク隨テ彼我ノ交際日
 ヲ逐テ進ミ情誼月ヲ逐テ加ハハル然レ之ヲ過
 スルヤ未嘗テ一逆ノ慣例アルニ非ラズ是ヲ以
 テ我ノ敬ヲ致ス所以ノモノ彼以テ不恭ト為シ
 我ノ此ヲ修ム所以ノモノ彼以テ疎遠ト為ス

其弊ニ爲傲ヨルテ威望ト爲シ卑シテ以テ親睦
ト爲スニ至ル誠ニ交際ヲ求ムル法ニ非ラス
因テ今歐米文明諸國ニ通行スル諸慣例通規
我風俗人情ニ適スルモノヲ取り私ニ集メテ一
編ト爲シ題シテ内外交際宴會禮式ト曰フル
慶弔訪問宴饗ニ事アルニ當リ此儀例ヲ踐行
ルトキハ庶幾クハ威敬睦誼両ナカラ全ク交
其宜ヲ得ン乎

内外交際宴會禮式 社會之部

第一章 交際ノ季節

毎年交際往來ノ季節ヲ春秋二季ニ分ク春
季ハ一月一日ヲ以テ始メ五月三十日ニ
ル秋季ハ十月一日ヲ以テ始メ十一月三
日ニ終ル
各人相往來交際スル固ヨリ其場合ニ因ル
テアレバ此季節外ニ臨時往來スルモ妨
レト雖モ今此ニ季節ヲ定ムルハ一年間ノ
時節 採ヒ遠近相交リテ相識ヲ求メ

其妻六交指ノ密ナラレムル
ルニ在リ
便三ヨリ

第二章

節會ノ度數

二季中大臣參議ハ各晚餐宴一回夜會一回
ヒテ外國修好官始ノ他ノ内外國貴紳名士
ヲ接待ス此外國遊會茶會踏舞會等ハ各
適宜ニ依ルト雖モ其中ヲ撰シテ各少クモ
一回ヲ開クベシ

但シ外務卿ノ如キハ此季節ニ拘
不常ニ外國修好官ヲ接待スルガ故ニ

第三章

節會ノ種類

其一

晚餐會

此ノ例數ニ依ラザルベシ

凡ソ饗應ヲ設クルニ其類數種アリ今ル
ヲ大別シテ五ト為ス其一ヲ晚餐會ト曰
フ閑宴ノ時間ハ季節ニ依ラテ定セ
ト雖モ通常六七時ニ於テ本會ハ宴饗
ノ中ニ就テ最モ鄭重ナルモノナリ故ニ
其饗具酒飯等ノ其他一切誤ケ他ノ會
比可成畧式ニセ

饗宴ニ列スルハ尊卑

位地ニ從ヒ之ガ次第ヲ叙
各自ニ其坐
席ヲ與フルヲ例トス

其二 夜會

本會ハ通常夜ルハ時半ヨリ九時半ノ間
ニ始ム而シテ散會ノ時間ハ其場合
リ遲速アレバ豫メ之ヲ定メ難シト雖
大抵一二時ニ終ルモノトス閑會ノ旨趣
ハ賓主相見親睦ノ情ヲ表シ衆客相見
會話スルニ在リ會集中ニ衆客ヲ慰スル

為メニ茶或ハ酒ヲ供スト雖其饗具ハ

晚餐會ニ比スレバ最簡易ヲ旨トシ通

食卓上ニ冷散數品ヲ陳列シ羹汁ノ類ヲ

用ヒズ而シ毎客ニ椅子ヲ與フルヲ要

ス又給仕ヲシテ各人毎ニ食品ヲ供給ス

ルニ及バズ各自其擇フ所ニ任セ立食スル

モノトス但タ飲料ノ類ハ給仕人ヲシテ

衆客ノ求メニ應シ供給セシムベシ且衆

客ヲ慰スル為メニ踏舞音楽若クハ烟火

ヲアリ

六三

園遊會

本會ハ午後二三時ノ間ニ始メ五六時ノ
 間ニ散ス會主ハ庭園中ニ於テ衆客ヲ迎
 接ス饗具及ビ奏樂ハ粗夜會ニ異ナレル
 ナレト雖モ之ヲ庭園中ニ設ケルノ例
 ルノミ又其場合ニ於テハ競馬打球騎射
 等ノ興具ヲ備エテ衆客ノ興ニ供スル
 最可トス

其四

茶會

本會ハ大抵夜會ト同シ午後三四時間ニ

始メ晩間ニ散ハルモノトス奏樂ニ三曲
 戲等ヲ用エルモ可ナリ

其五

踏舞會

本會ハ午後八時半ヨリ九時半ノ間ニ
 ム而シテ散會ノ時間ハ午前一二時ニ終
 ルヲ以テ通常トス饗具ハ粗夜會ニ同シ
 ト雖モ其場合ニヨリテハ食堂ヲ鎖シテ
 キ午前一時比ニ至リテ之ヲ閑キ衆客
 立食セシメ或ハ椅子ヲ與テ夜食ヲ供ス
 用室ハ接待室ノ下ニ踏舞室一

所ヲ以テ設クベシ且本會ニハ必ず踊
舞ノ為ニ奏樂ヲ要ス

第四章

宴會ノ用室

饗宴ニ用エル家屋ハ男女粧飾室食堂會話
室ヲ豫備スベシ踊舞會アルトキハ右ノ外
ニ踊舞室ト奏樂所ノニヶ所ヲ要ス

第五章

招待状ノ發期

節會ヲ開設セント欲スルモノハ凡ソ一週
間以前ニ招待状ヲ送ルベシ且本會ニ招
ベキ賓客ハ其官位尊卑大抵相當セシモノ

ヲ招クヲ以テ例ニス

但シ妻ノナキ人ハ諸種ノ宴會ニ婦人

招待スルヲナシ若婦人ヲ招待スル時

必ず類族ノ婦人ヲシテ接遇セシムベシ

第六章

每會招待状ノ書式

凡ソ各種ノ節會ヲ開クニ一般ノ為メニス
ルト特別ナル貴賓ノ為メニスルトノ別アリ
故ニ其書式亦之ヲ區別セザル可カラズ
今其書式ヲ左ニ掲ク

園遊會 夜會 招待ノル書式
踏舞會 茶會

某及同氏ノ妻来ル 月 日 何時
園遊會 夜會
踏舞會 茶會
ヲ 閑設セント欲ス 因テ 恭シク 某君及
夫人ノ 光臨ヲ 希望ス

乞貴答

何町 何番地

特別ナル貴賓ノ為ニ他ヲ招待スル書式

某皇帝陛下或ハ親王殿下或ハ某君閣下ニ接會
セシガ為ニ 某及同氏ノ妻来ル 月 日 時
園遊會 夜會
踏舞會 茶會
ヲ 閑設セント欲ス 因テ 恭シク 某君及
夫人ノ 光臨ヲ 希望ス

乞貴答

何礼服用
何町何番地

前同断晚餐會ニ他ヲ招待スル書式

某皇帝陛下或ハ親王殿下或ハ某君閣下ノ為
ノニ某及同氏ノ妻来ル 月 日 何時
晚餐宴ヲ開カント欲ス因テ恭シク某君及ヒ
夫人ノ光臨ヲ希望ス

何所何番地

特別ナル貴賓ヲ招邀セント欲スルトキハ
他ニ招待状ヲ發スル以前ニ會主先ツ親
ク貴賓ニ就テ其来臨ノ時宜ヲ請問シ
上ニテ其會日ヲ定メ更ニ公然其招待状ヲ
發スベシ或ハ書状ヲ以テスルモ可ナリ

第七章 賓客ノ位次

招待ノ賓客ニ貴賤ノ別アレバ各其官位勲
等ニ應シ相當ノ礼遇ヲ為スベシト雖モ私
會ニ於テハ嚴正鄭重ニ過キザルヲ可ナ
凡諸種ノ宴會ニ内外人ヲ招待シ其位次ヲ

設ケザル可ラザル場合ニ於テハ外賓ノ官位勲章等内賓ト對等ナルトキハ外賓ヲ以テ上席トシ内賓ハ之ニ次クモトス例ハ内外嫡嗣ノ親王内外當帝ト血統アル親王血統ナキ親王外國大使三大臣外務卿外國公使參議諸卿議官等ノ順序ヲ逐フベシ尤外國貴賓ノ為メニ特ニ宴會ヲ開クトキハ皇族ヲ除クノ外ハ其官位ノ高下ニ拘ハラズ衆客ノ上ニ其席ヲ設クベシ但シ修好官ノ為ニ設クルキハ修好官ヲ

大臣ノ上ニ列ス且修好官中ノ席次ハ同等ノ公使ナレバ本邦ニ來着國書ヲ捧呈シタル前後ニ依リ之ヲ設ク書記官以テハ其公使ノ順ニ從フモノトス

第八章 會主ノ招待ノ礼式

晚餐夜會踏舞茶會ニハ會主ハ預定ノ時間迄ニ用意シ其接待室ノ戸内ニ在ツテ來客ヲ迎接スベシ衆客ノ至ルヲ待ツテ食堂ヲ開キ會主ハ先ツ當夜ノ上客ヲ誘導シテ食堂ニ至ルベシ而シテ衆客ハ之ニ次テ同室

一至

第九章

婦人ヲ扶助スルノ礼

晚餐會ニ婦女ヲ招待スルトキハ男子扶
テ食堂ニ入ルヲ礼トス故ニ會主ハ豫メ男
女客負ノ數ヲ量リ食堂ニ入ルノ前ニ於テ
其扶ケシムベキ婦女ノ名前ヲ記シタル紙
箋一枚ヲ、男子ノ客ニ付典ス公然ラガルヲ可
トス又時アツテハ
口上ニテ通スルコトアリ其扶ケラレ、婦人ト扶クベキ
士ハ成ル可ク其双方尊卑ノ相均シキ
ヲ撰ム若シ尊卑ヲ以テシ難キハ席位ノ

高下ニ隨フベシ主人ハ當夕女客ノ上席ヲ
占ムベキ人ヲ扶ケテ第一ニ食堂ニ入男客
ノ上席ヲ占ムベキ人ハ主人ノ妻ヲ扶ケ
最後ニ食堂ニ入り而シテ第一ニ食堂ニ入
リシ男子(即チ主人)ハ先ツ其扶クル所ノ婦
人ヲ其席ニ就カシメ自分ハ各負ノ各其席
ニ就ク迄立ツテ之ヲ俟ツベシ

第十章

男女ノ化粧室

化粧室ニハ來賓中婦人ハ婢ヲシテ扶ケシ
男子ハ僕ヲシテ扶ケシム

但来賓中外國人アラハ成ル丁ク外國語
トス
通シタル僕婢ヲ撰ム最モ便利ナリ

紳士ノ粧飾室ハ小使數名ヲ置キ衆客ノ小
套帽子傘等ヲ出入ノ際ニ交付セシムベシ

第十一章

使丁ノ配置

門戸ノ側ニ使丁ヲ置キ之ヲシテ衆客出入
ノ際ニ車馬ノ開閉及召集等ノ丁ヲ掌ラ
ムヘシ

接待室ノ入口ニ使丁ヲ置キ客廳ニ入ラシ

トスル賓客ノ名ヲ聴取シ高聲ニテ其官名
若クハ姓名ヲ會主ニ傳達スベシ

第十二章

未會者参集中ノ禁戒

宴集ノ席ニ於テ衆客接話スルニ務メテ温
和ナラシメテ要ス大聲ニ談笑シ車物ヲ激
論シ猥褻ノ言語ヲ吐ク可カラズ
會場ニ於テハ其為ニ設クル室ノ外ハ喫
烟ヲ戒ムベシ且醉態ヲ露ハレ嘔氣欠伸等
ハ舉動アルハ歐洲ノ慣習ニ於テ最モ恥ト
ル所ナリ

室内ニ婦人アリテ倚ルベキ椅ヲ無キトキ
男子之ヲ讓與スルヲ礼トス

夜會等ノ節ニ食堂或ハ其他ニ於テ酒茶ノ

饗アルニ當リ給仕人ノ居所或ハ庖厨室ニ

一隈リニ入ルヲ戒ム

外套襟巻杖鞭傘ノ類ヲ携ヘナカラ會場ニ

入ルハ礼ヲ失スルモノトス故ニ堅ク之ヲ

戒ムベシ

第十三章

礼服ノ種類及参着退散ノ時間

者種ノ宴會ニ参集スル者ハ必ス其招待状

ニ示ス所ノ礼服ヲ着用スベシ若レ示サ、
ルトキハ晚餐踏舞夜會ニハ通常礼服其他
ハフロツコートヲ用エルヲ可トス

参着ハ晚餐ニハ指定ノ時間ヲ最可トス若

シ指定ノ時間ニ後ル、トキハ遅クトモ十

五分ヲ過ク可ラズ早キトキハ五分ヨリ

早カラザルベシ退散ハ大抵衆客ト共ニ

ルヲ可トス踏舞夜會茶會園遊會等ニハ指

定メ時間ニ十五分間或ハ一十分時間後レ

参着スルヲ最可トス然リト雖モ其會ノ終

ツサレ間ハ何時ナリトモ參着レテ可ナリ

第十四章

招待ノ答礼

招待ヲ受ケレモハ成ル可ク速ニ話否ノ

回答ヲ為スベシ又宴饗ノ後ハ成ル可ク速

ニ訪問レ前會ノ謝辞ヲ致スベシ

可トス其他ハ三音若シ親シク面會ヲ要セザルトキ

同ナレバ可ナリハ名刺ヲ出シ置クベシ

但シ其名刺ハ自カラ訪問セシ後トシ

名刺ノ右邊ヲ折リ置クベシ面會スルト

キハ其コトニ及ハズ會主夫婦ナルトキ

名刺ニ枚ヲ出置クベシ一ハ其婦人ニ

送ルノ意ナリ若招待ヲ受ケレ若夫婦ニ

テ會主夫婦ナル時ハ其招待ヲ受ケレシ

ノ名刺ニ枚婦ノ名刺一枚ヲ投スベシ之

レ招待ヲ受ケレ夫ヨリ會主ノ夫婦ハ

枚ツ、ヲ投シ婦ハ會主ノ夫ニ名刺ヲ投

スルニ及バザルヲ以テナリ

招待ヲ辞スルハ通常書翰ヲ以テスルト雖

も三四日ノ間ニハ必ス自カラ其會主ヲ

同シ其礼意ヲ致スベシ尤其主人ニ面會ス

ルヲ丁寧トス然レ名刺ヲ殘置クモ亦可

第十五章

定季及ニ臨時訪問ノ礼式

季節中大臣参議各省諸卿院長等ハ外國
リ我國ニ駐在スル公使及附属官ヲ訪問ス
ルニ礼トス其妻或ハ娘女ノ交際社會ニ往
来スル家ニハ大抵季節中ニ接客ノ時ヲ
豫定シ置クモノナリ故ニ訪問セント欲ス
ルモノハ成ル可ク其接見日ニ至リ之ヲ訪
フ可シ若シ接見ヲ要セザルトキハ名刺

ニ差置キ其礼意ヲ致スベシ

通常訪問ニハフロツコトヲ用エザシ

第十六章

接見時日ヲ定メ置ク

接見日ヲ定ムルノ人ハ兼テ友人ニ其旨ヲ
報シテ然レテ其當日ハ茶菓ヲ設ケ主人
ハ必ス在宿スベシ

第十七章

官階ニ應ジ訪問答礼

其官位等ヲ以テ訪問スルトキハ各國ノ公
使ハ理公使ハ大臣参議諸省ノ長官自
ラ彼等ヲ訪問シ又ハ彼等ノ訪問ニ答礼

第十八章

訪問ノ種類

訪問ノ種類ヲ分ツ左ノ如シ

其一 新年節

本日ハ外國ノ皇族大使ヲ除ク外ハ
外國人ヨリ我ニ向テ先ツ拝賀
ヲ為スヲ通例トス彼ヨリ訪問ヲ受ク
トキハ三日ノ内ニ答礼ヲ為スベシ
皇族大使又ハ平常ニ親交ナル公使

彼ノ來訪ヲ俟タズ我ヨリ之ヲ訪問ス
但シ書記官以下ハ單ニ名刺ヲ贈リ

ノ來意ヲ答礼スベシ
新年相互ノ回礼ハフロッコ
シ

其二 修好官到着及出發ノ訪問

外國ノ修好官新々ニ此國ニ到着
スルトキハ彼レ公使ナレハ自身
附屬官
後大臣參議諸卿ヲ訪問

ナレバ使者ヲ以テ三日ノ内ニ答礼ヲ為

ベシ

外國ノ修好官出發ニ際シ暇乞トレテ夫

トキハ成ルベク速ニ答礼ヲ為スベシ

附屬官ニ答礼スルノ前ニ同シ

但シ暇乞ノトキハ大抵其名刺上ニ

ノ三字ヲ記ス是レ佛語告别ノ義

ト知ルベシ

大使國書捧呈ノ式畢ルトキハ彼ヨリ

訪問ヲ待タズ我ヨリ之ヲ訪問スルヲ不

2

ス但タ外務卿及ヒ式部官負ハ謁見ス

前ニ彼レヲ訪フヲ敬礼トス出發ノキ

ハ彼ヨリノ通知ヲ待テ我ヨリ之ヲ訪

ベシ

其三 外國ノ帝王皇族着叢ノ訪問

外國ノ帝王皇族等到着ノ報知スルトキ

成ル可ク當日ニ其旅館ニ至リ訪問フ

ベシ此訪問ハ通常其旅館ニ於テ其為

特ニ設ケアル帳簿ニ記石スルヲニテ

是レリ必スシテ特ニ面會ヲ要スルニ及

大正 女官

ハス

共ノ

婚姻及ヒ安産ノ訪問

修好官中ニ婚姻若クハ安産ノ慶儀アル
報知ヲ得ルトキハ之カ為メニ祝詞ヲ曾
ルベシ或ハ其家ヲ訪ヒ名刺ヲ置クモ可
ナリ又彼ヨリ我ニ贈ルトキハ三日ヲ出
テカシテ答礼スベシ婚姻ノ礼式ニ大
貴賓ヲ招待スルハ全ク懇親上ニ依
ルモノナリ

其二

凶礼ノ訪問

修好官中公使或ハ其妻子

（交際社會ニ加ワリシモ）

凶礼アルトキハ外務卿ハ自ラ往テ之ヲ
弔問ス大臣参議其他ノ貴官ハ懇親上ニ
非ラガレハ親シク往クニ及バズ然レモ
葬ノ招ヲ受クルトキハ之ニ赴クヲ礼ト
ス

凶事アル家ヲ訪問シ名刺ヲ投スルトキ
ハ其名刺ノ左邊ヲ反折スルヲ徴トス
又送ノ後一周間内ニ喪主ヲ弔問スベシ
然レ此ノ如キ哀礼ノ訪問ニハ格別至懇

ノ間ニアラザレバ面會ヲ乞ハザルヲ可
ス

其六 妻其夫ニ代テスル訪問

通常季節中ノ往來訪問ニ自カラ往ク
能ハザル場合ニ於テ其妻ヲシテ自己ノ
名刺ヲ携ヘ至ラシムルハ敬礼上ニ於テ
自カラ訪問回答シタルニ同シ若シ又
得已夫妻訪問答礼ヲ為シ難キトキハ相
當ノ名代ヲシテ其名刺ヲ携ヘ贈レ
下僕或ハ郵便ヲ以テスルハ礼ヲ盡セリ

ト云フベカラズ

但シ婦人ナキ家ニハ妻ヲシテ代リ訪
ハシムルナシ

其七 公務ノ訪問

公務其他要件アリテ其家ニ至リ其序ダ
ニ訪問ノ礼ヲ述ルハ礼ニアラズ右ノ如
キ事務アリテ来ルモノハ答礼ヲ為
ニ及バザルベシ

其八 訪問ノ時間

訪問ハ早朝晚景又ハ食事時間ニ為ス可

クヲズ午後一時半頃ヨリ五六時頃迄ヲ
尋レトス然レ要用ノ為ニ一訪問スルハ
此限ニ非ラス格別ノ要務アラズレテ白
會シタル時ハ長坐ス可カラズ成ル可ク
短キヲ善シトス
（此尋問ハ帽ヲ携ヘテ室ニ入
ルヲ善トス之レ只尋問ノミニシ
テ亦スモナリ）

其九

夫婦訪問及名刺ノ殘シ方

夫婦同伴シテ夫婦ノ人ヲ訪問スルトキ
ハ夫婦連名ノ名刺ヲ差シ置キ若クハ夫
ハ二枚ノ名刺
（先方夫婦ニ當
ツルカ為メナリ）ヲ差シ置婦ハ

26

單ニ一枚

先方ノ婦ニ當
ツルカ為メナリ

ヲ差シ置クベシ

其十

誕生病氣ノ訪問及其答礼

内外官負平素相互ニ交際スル家ニ誕生
又ハ病者ヲ訪フトキハ格別懇親ナ
ルモノハ面謁スト雖モ通例其名刺上ニ
御見舞ノ三字ヲ書シ置クベシ
産者或ハ病者快復平愈セラ外出スルト
キハ前日訪問シタル諸人ヲ訪テ其名刺
ニ呈謝ノ二字ヲ書シ置クベシ尤面會
スルトキハ之ヲ書スルニ及バズ

太
女
宮



